

さあ、いよいよ音楽の授業が始まります

## 音楽の授業へようこそ

中学生になると、変声期と言って声変りをして皆さんの歌声の幅が豊かになり、小学生の時と同じ歌を歌っても、より音楽的な表現ができるようになります。また、10月には豊春中の伝統行事の一つである『合唱祭』もありクラスや学年の仲間と心をつなげて歌うことで絆も深まり、学校生活がより一層楽しくなります。皆さんと1年間一緒に楽しく授業をしていきたいと心から願っています。音楽が得意な人、苦手な人、好きな人、嫌いな人、感じ方はそれぞれだと思いますが、一人でも多くの人に音楽の楽しさが伝わるように、頑張ります！よろしくお願いします！！

2年生の授業では歌うこと楽器を演奏することだけではなく、世界の民族音楽や日本の伝統音楽など、さまざまな音楽に触れることにより、よりいっそう音楽への親しみもわいてくると思います。これから学習を進めていく上で、音楽の楽しさを味わえればよいと思います。

3年生の音楽の授業は、義務教育最後の音楽の授業です。高校では、音楽は芸術科目として選択ですので、音楽の授業を受けることが最後になる人もいます。小学校、中学校1・2年の学習のうえに立ち、より深い内容を学習し、将来、合唱団等に入団したり、バンドを組み曲を作るなど、生涯にわたって、楽しくいろいろな音楽と触れ合っていくのに役立つ音楽の授業を展開します。

### ○学習内容

#### 歌唱

1年では混声合唱活動が中心になります。2年では男子の声も徐々に落ち着き、いよいよ大人の声に変化していく時期になってきました。伸びやかな声を出すとともに、気持ちを込めて歌えるように取り組みましょう。3年ではより音楽的な合唱づくりに挑みます。感動の卒業式を目指し、がんばります。それが豊春中の伝統です。

#### 器楽

箏を学習します。音を出す前の道具の扱い方や座り方なども学び、箏名人を目指しましょう

#### 鑑賞

情景や詩をもとに想像豊かに音楽を鑑賞していきます。その背景となる文化や歴史にも触れていきます音と音とのかかわり合いや、曲の形式、働き等を理解しながら曲全体を味わっていきます。また、我が国及び世界の音楽にも触れていきます。オペラやミュージカルなどの総合的な芸術も鑑賞します。

#### 創作

リズムは音楽の基本です。手や打楽器などを使って、リズム学習を中心に展開していきます。2年ではリズムパターンや即興的な旋律をもとに、まとまりある音楽づくりを展開していきます。ポイントは、よく音を聴き、音を選んでいくことです。3年では1・2年で取り組んできたリズムの学習に音高を付け、メロディーやハーモニーを考えていきます。

## ○授業の進め方、授業の持ち物

- ・音楽ファイルを手さげ（小学校で作製したバックやエコバック等）に入れて持ってきてください。その中に、「音楽」と「器楽」の教科書、合唱曲集を入れてください。リコーダー（必要なときだけ）、筆記用具を入れて、これを「音楽セット」とします。（年度末に教科書は捨てないように！）
- ・混声合唱曲に取り組みます。これは、女子がソプラノ（高い音域）とアルト（低い音域）に分かれ、これに男声が出たパートから成り立っている合唱曲です。男子はテノール（高い音域）バス（低い音域）に分かれて同じパートやそれぞれのパートを歌います。それぞれのパートでパートリーダーを決め、その人を中心にパート練習を行ってから全体での練習に入ります。ここでは特に、自主的な活動が求められます。
- ・パートリーダーは、各2名。1人は鍵盤楽器が弾ける人がいてくれた方がよいのですが、いなくてもCD等を利用してできるので、やる気のある人なら大歓迎です。練習の進め方は先生が伝授します。

## ○評価について

1年間を通して、次の3つの観点から学習の様子を評価していきます。

### ♪知識・技能

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。

### ♪思考・判断・表現

- ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

### ♪主体的に学習に取り組む態度

- ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的。協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

## ○校内合唱祭について（今年度は10月19日（木））

豊春中学校では、毎年10月下旬に、春日部市民文化会館大ホールにおいて校内合唱祭を開催しています。ここでは、クラス合唱、学年合唱、全校合唱の曲を披露します。

授業で行う、パートリーダーを中心としたパート練習、合唱練習を工夫し、互いの協力でしっかりとつくり、「歌わされている」のではなく一人一人の「歌いたい」気持ちを結集してつくる合唱をめざしましょう。